



北総モラルアップ通信

～チーム北総 思いを伝え合い認め合う職場づくりのために～

4月からの休校、学校の再開、例年より短い夏休み、教育課程の変更等、コロナ禍において学校が一丸となって子供たちのために教育活動に取り組まれていることと存じます。このような状況の中、更に学校のチーム力を上げるためには、児童生徒、保護者、地域の方々、教職員と健全なコミュニケーションを構築することが求められます。

そこで、今回の「北総モラルアップ通信」では、「各種ハラスメント」について取り上げます。悪意や自覚がなくてもハラスメントの対象になることもあります。お互いの信頼を深めるためにも、ハラスメント防止についての理解を共有することが重要だと考えます。

今月のテーマ「なくそう！ハラスメント」

チーム北総5S+1 Service:「目配り、気配り、心配り」

☆コンゼツ・ノ・ヒント☆

「目配り、気配り、心配り」で、差別やハラスメントのない職場にしていきましょう。

「目配り」：自分だけに視点を置くのではなく、アンテナを高く、周囲の様子を察知することができる。

「気配り」：視野を広く、困っている人に手をさしのべることができる。

「心配り」：相手の立場に立って、心情をくみ取ることができる。

パワーハラスメント

パワーハラは、職務上の地位や人間関係の優位性を背景に業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的な苦痛を与えることとされていますが、県教育委員会のガイドラインでは、同僚同士または部下から上司に対するもの（モラハラとも言われます）も含まれています。また、加害者が悪意を持っておらず、相手に精神的苦痛を与えていることを自覚していないという特徴もあります。

次のような言動がパワー（モラル）ハラスメントに該当する可能性があります。

- 怒鳴られたり、物を投げつけられたりする。
- 侮辱的な発言を受ける。
- 自分が意見を言っても否定ばかりされる。
- 話しかけても無視される。
- 孤立させられる。
- 陰口を言われる。
- 懇親会などへの参加を拒絶される。
- プライベートに関する事項について過度に踏み込まれる。

☆チェックしてみましょう☆

※加害者側の視点に立っても確認してみましょう。

セクシュアルハラスメント

☆あなたの認識度をチェックしてみましょう☆

- 親しさの表現や励まし等が動機であっても、相手を不快にさせる場合があることを理解している。
- 児童生徒が教職員の言動に対して不快に感じた場合でも、児童生徒は明確な意思表示ができない場合も多いことを理解している。
- 児童生徒の行動の変化を的確に把握することにより、内面の状況を理解するように努めている。
- 日常生活のあらゆる場面において、児童生徒を一人の人格を持つ個人として対応しているか、性別による固定的な役割分担意識がないかどうか、自ら点検している。
- 日ごろから児童生徒との信頼関係の醸成に努め、児童生徒が相談しやすい環境の整備を心がけている。

様々なハラスメント

妊娠している人、出産した人に対する「マタニティハラスメント」、育児等に関わろうとする父親に対しての「パタニティハラスメント」、結婚に関する「マリッジハラスメント」、年齢に対しての「エイジハラスメント」、ハラスメントと過剰に主張する「ハラスメントハラスメント」等、ハラスメントには40もの種類があると言われています。

ハラスメントに対する正しい知識を身に付け、自分がハラスメントの加害者・被害者になることを事前に防げるように対策していきましょう。

防止のための具体的方策

☆校内での取組に照らし合わせて、チェックしてみましょう☆

- 相談窓口やハラスメントに対する対応法等、校内で共通理解が図られている。
- 校内のセクハラ・パワハラ相談員の存在を児童生徒や保護者は知っている。
- 具体的事例を分析し、教職員が各種ハラスメントについて共通理解を深めている。
- 教職員自らの意識や行動の問題点に気付くことができる研修を行っている。
- 児童生徒に人権侵害を許さない態度を養うよう指導している。

私たちの「働き方改革！」～こんな取組いかがですか～

各学校で様々なアイデアを出し合い取り組んでいる「働き方改革」。素晴らしい取組はみんなで共有することで、児童生徒や教職員にとって、よりよい学校になると考え、数ある中から少し紹介をしたいと思います。

「宣言リフレッシュデー！」 ○○小学校の取組

1 概要

週に1回、自分で何曜日をリフレッシュデー（17:30～18:00 退勤）にするか決めて実施。

2 実施の根拠

毎週水曜日など全体で統一したリフレッシュデーを設けて実施してきたが、時期やその教職員によって忙しいタイミングが違うため、統一は難しい。そこで、その教職員に合ったリフレッシュデーを設定する。

3 進め方

①週の始めに、自分で何曜日をリフレッシュデーとするか設定し、ホワイトボード（写真）にネームプレートを貼って明示する。

②実施できた場合は、クリアコーナーへネームプレートを移動させる。

4 取組の効果

- 自分の仕事量に合わせた勤務ができる。
- 「今週は○曜日がリフレッシュデーだから、○曜日までにこの仕事を終えよう」など見通しをもった仕事ができる。
- ホワイトボード明示による視覚化で、職員同士の声掛けができる。
- 早く帰ることに遠慮が無くなり、帰りやすい雰囲気づくりができる。
- 月当たり正規の勤務時間を80時間超えて在校する職員が継続的に少ない。（ほぼ0名）

5 さらに工夫

- ・実施できた学年、職員、または、1か月間リフレッシュデーを実施できた職員には校長先生より心温まるプレゼント！楽しみながら業務改善に全職員で取り組む。

◎みんなで働きやすい環境を作っていきます！



(写真 ホワイトボード)

※北総教育事務所では、今後もアイデア活かした働き方改革の取組を紹介します！

～朗らかに 組み合う肩の 組織力 生み出す力 子どものために～